

にのみや気候市民会議（第3回）実施結果

日 時：令和6年8月25日（日） 午後1時30分から午後4時30分

場 所：生涯学習センターラディアン ミーティングルーム2

参加者：33名

・町 民 22名

・事業者 5名（柳川乳業株式会社、ザ・ビッグニ宮店、
ヤマト運輸株式会社(2名)、神奈川中央交通株式会社）

・町職員 6名

講 師：勝田悟氏（東海大学院 人間環境学研究科教授）

傍聴者：7名

I. 概要

第3回にのみや気候市民会議は、東海大学院人間環境学研究科の教授である勝田悟氏を講師にお迎えし、「CO2の発生源について」をテーマに講義を行ったほか、町内で事業を営む事業者4社にオブザーバーとして参加いただき、各業界での地球温暖化防止対策の課題や自社での取組について情報提供いただきました。

「議論（話し合い）」では、「どのような町にしたいか・住みたいか」や「CO2の発生源対策でできること・求められること」について、話し合いを行いました。

II. 当日の流れ

1. 事務局説明

事務局より、第3回にのみや気候市民会議の流れについて説明を行いました。

※詳細は「事務局スライド（P3～P12）」を参照

2. 講義

勝田悟氏より、「CO2の発生源について」をテーマとした講義を行いました。

※詳細は「講師スライド」を参照

3. 情報提供

事務局より、事業者4社に予め実施したヒアリングの結果をもとに「Q.現在、取り組んでいる温室効果ガスの排出の削減策は？」、「取り組む中での課題は？」、「Q.今後、取り組みたい温室効果ガスの排出の削減策は？」等について情報提供を行いました。

※詳細は「事務局スライド（P17～P24）」を参照

4. 議論（話し合い）

議論（話し合い）①

A～Eの5グループに分かれて「どのような町にしたいか・住みたいか」について話し合いを行いました。

議論（話し合い）①

～ どのような町にしたいか・住みたいか ～



15

※「話し合いのルール」は第1回・第2回と同様

議論（話し合い）②

A～Eの5グループに分かれて「CO2の発生源対策でできること・求められること」について話し合いを行いました。

議論（話し合い）②

～ CO2の発生源対策でできること・求められること ～



25

※「話し合いのルール」は第1回・第2回と同様

議論（話し合い）①・②に関する発表

各グループの発表者より、グループ内で話し合った内容について、発表を行い、全体で共有しました。

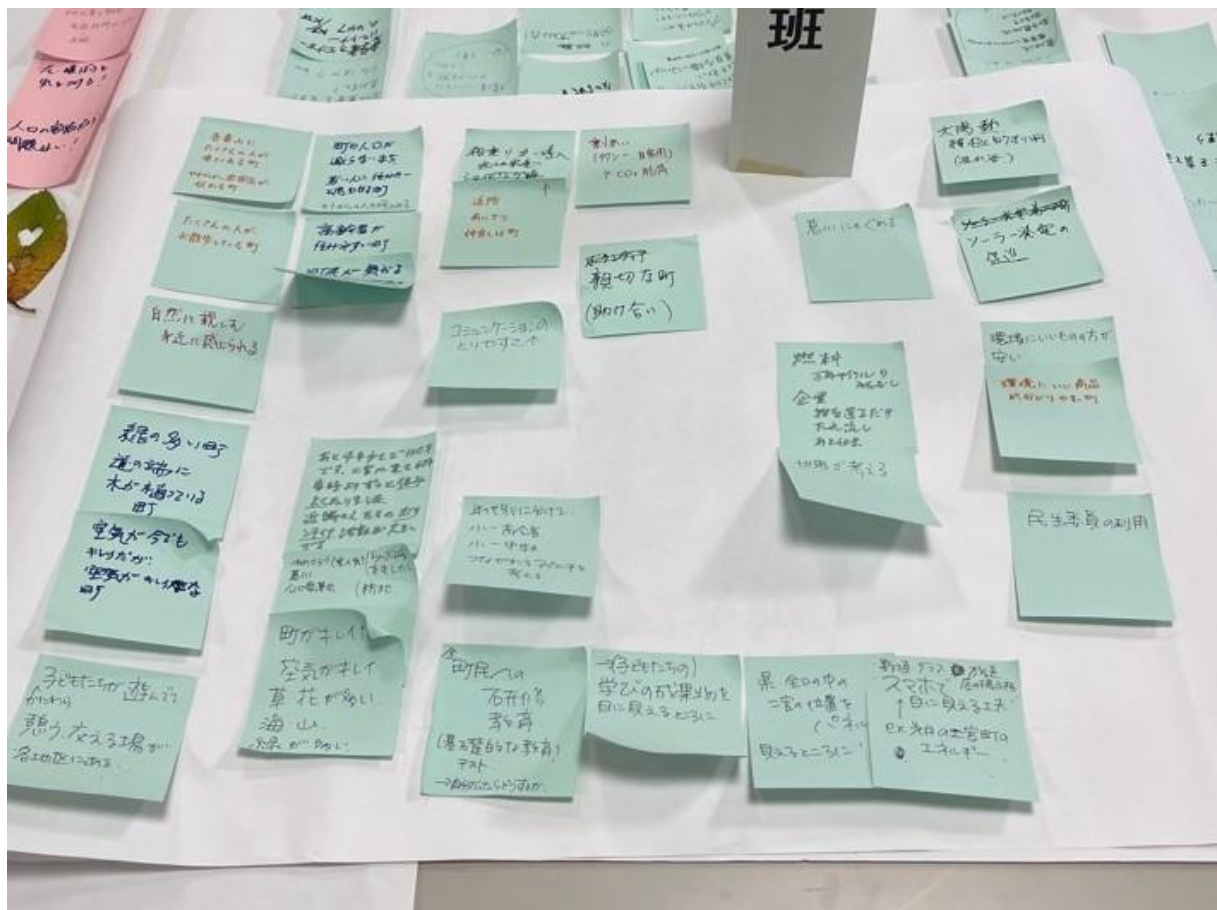
【A グループ】

〈発表内容〉

「どのような町にしたいか・住みたいか」については、町民同士で挨拶を気軽にでき、繋がりが深い町がよいという意見が出た。

「CO2 の発生源対策でできること・求められること」については、町民同士の繋がりが深い町を実現することで、地域の人との自家用車の相乗りができるのではないかという意見があり、現時点では実現できない取り組みも、人と人の繋がりによって実現できるのものは多くあると感じた。

〈グループ内での議論の内容〉



【B グループ】

〈発表内容〉

「どのような町にしたいか・住みたいか」については、町内でなんでも完結させられる町に住みたいという意見が出た。地産地消を意識し、少しずつそのような町にできたらと思う。

「CO2 の発生源対策でできること・求められること」については、飲み物の多くが冷やした状態で販売されているコンビニにおいて、常温を買いたい人もいると思うので、冷蔵しておく本数を減らすことで、冷蔵効率を上げ、省エネにつなげてはどうかという意見があった。

〈グループ内での議論の内容〉



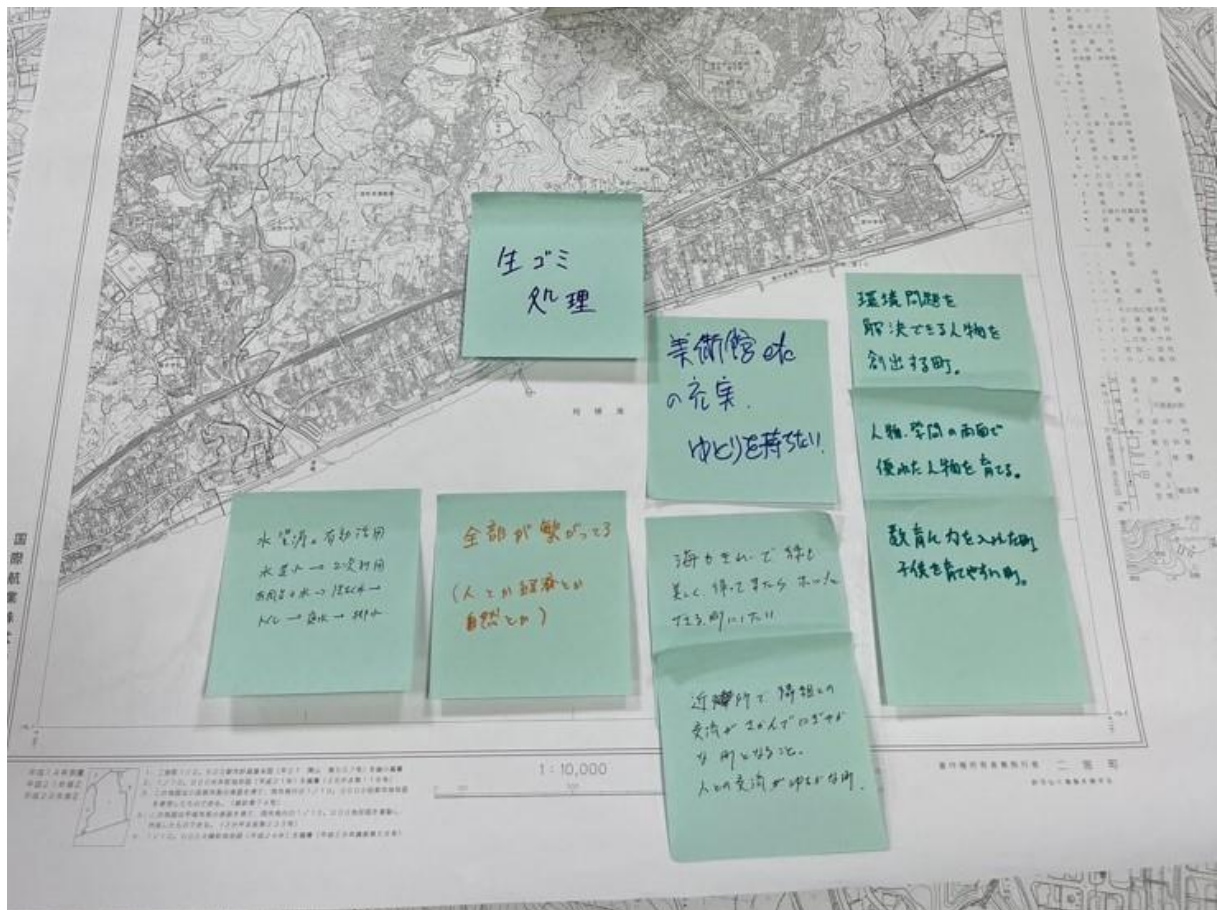
【C グループ】

〈発表内容〉

「どのような町にしたいか・住みたいか」については、自然が豊かで地域交流がある町がよいという意見が出た。

「CO2 の発生源対策でできること・求められること」については、人材の育成や確保が求められるという意見が出た。また、そのためには、子どもの教育に力を入れることに加え、学びの場として美術館を建てることで、教育だけでなく、外から環境問題の解決や地域コミュニティの形成の助けとなる人材が二宮町に来るきっかけにすることができるのではないかという意見が出た。

〈グループ内での議論の内容〉



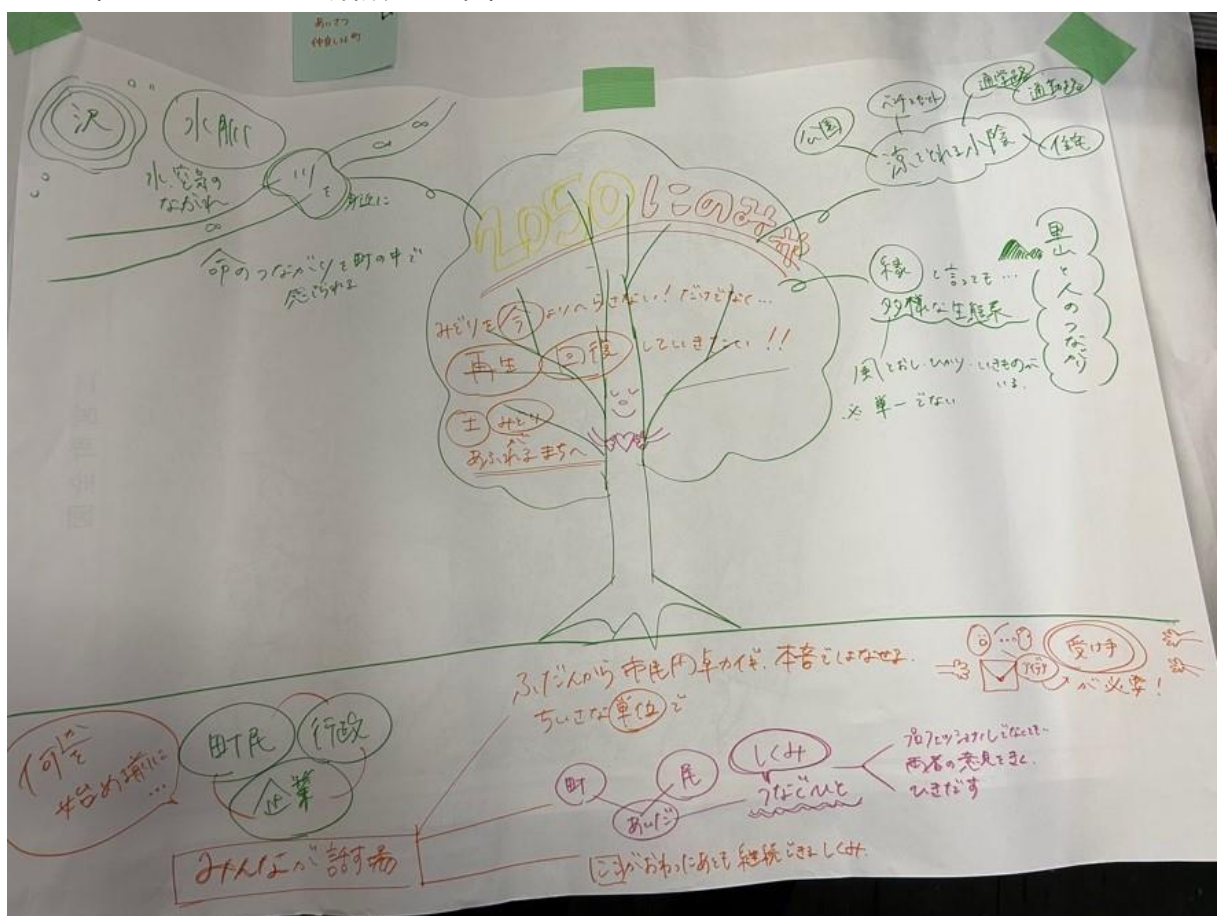
【D グループ】

〈発表内容〉

「どのような町にしたいか・住みたいか」については、自然で遊べるような場所が欲しいという意見や、土や緑にあふれ自然が再生・回復している町にしたいという意見が出た。

「CO2 の発生源対策でできること・求められること」については、町民、事業者、行政の話し合いの場を増やし、3 者で協力して行っていくことが求められるという意見が出た。気候市民会議を活かし、そのような仕組みを作っていけたらと思う。

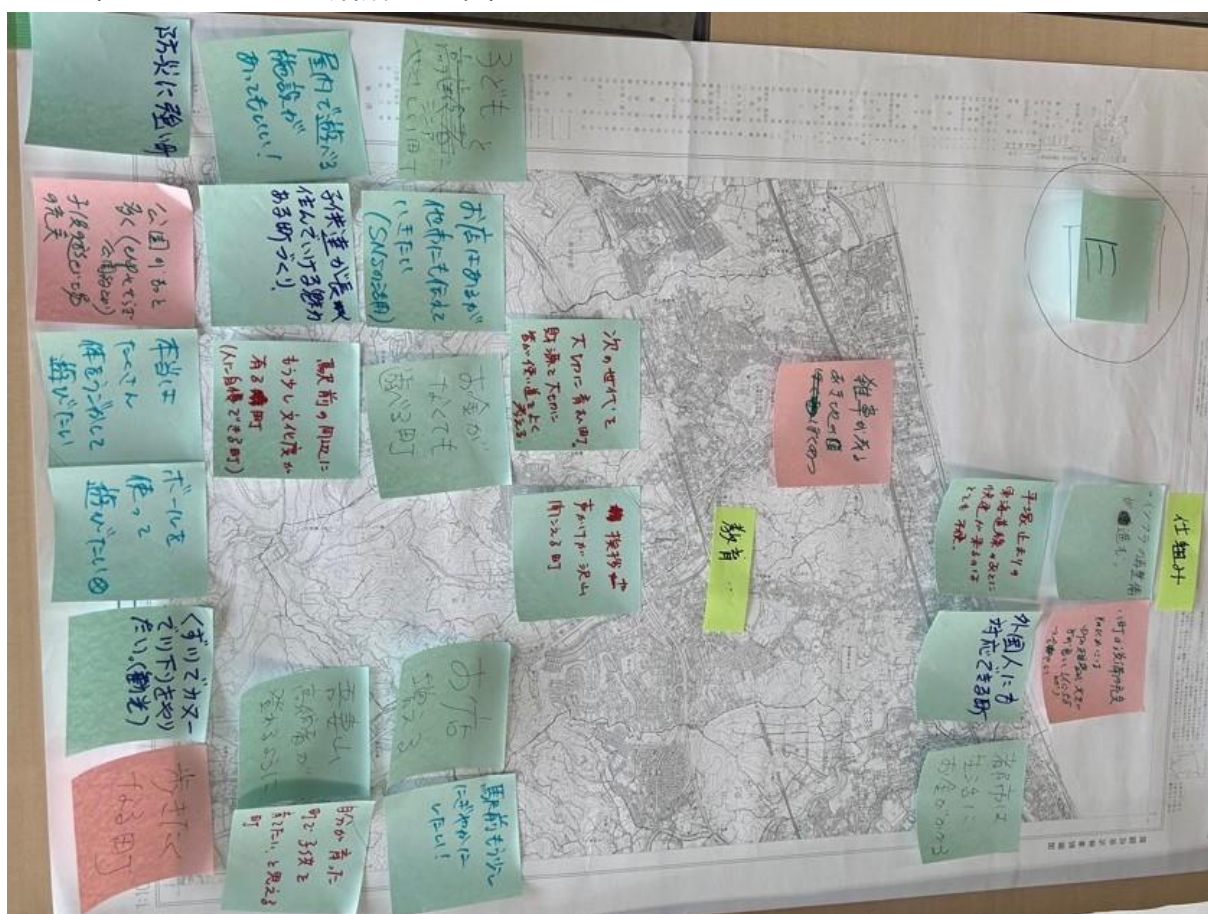
〈グループ内での議論の内容〉



〈発表内容〉

「CO2の発生源対策でできること・求められること」については、カーシェアやレンタサイクルの普及と利用してもらうための啓発が求められるという意見が出た。また、ごみの分別等の当たり前なことを着実に行う等の意見も出ていた。

〈グループ内での議論の内容〉



6. 講評

勝田悟氏より、「議論（話し合い）①」、「議論（話し合い）②」で話し合われた内容等について、講評をいただいた。

市民会議に参加されているみなさんが、それぞれ「自分事」として真剣に環境について話し合っている姿にとっても心を打たれた。

また、議論の中で、環境効率や環境保全等専門的な知識からの意見が出ていたことにも驚いた。

発表の中で、美術館を建てるといった意見があったが、地域固有の自然や歴史、文化等の地域資源をまちの魅力として発掘し、町全体を博物館とする「エコミュージアム」が、二宮町でも作れるのではないかと思わせるほどにとってもよい議論なされていた。

今後、AIの普及により、可能性は無限大なので、「こんな町にしたい、こんな町に住みたい」という今日の気持ちを忘れずに、色んなことに挑戦していったほしい。

7. 次回開催に向けた連絡事項

今回は、10月20日の日曜日の開催となります。場所は、この部屋（生涯学習センターラディアンのミーティングルーム2）です。

今後、第4回と第5回の残り2回の市民会議で、これまでの議論で出た意見を具体化し提案の形にするのに時間が足りなくなる恐れがあることを鑑み、第4回を開催するまでの間に、3.5回目として、有志の参加者のみで意見の分類作業を行うことしたい。

後日、実施日や場所についてご連絡させていただくので、都合のつく方にはご参加いただきたい。